

○査読ポリシーについて

「第12回日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法学会学術大会」に応募された演題は以下の査読ポリシーの元に査読されます。

1.査読者の選定と登録

査読者候補は過去の査読実績と専門会員および一般会員（(公社)日本理学療法士協会が認定した認定・専門理学療法士を有するもの）から日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法学会が選定する。査読者としての登録を受諾する者は、受諾手続きの過程で査読可能な細分類を選択する。

2.応募演題への査読者割り当て

応募演題1題につき3人の査読者が査読する。

査読者が演者(筆頭、共同含む)になっている演題と査読者の所属施設から応募された演題は、当該査読者に割り当てない。

3.査読内容

査読者は、以下の評価項目について採点を行う。採点は、二択（適切・否）または5段階順序尺度を用いる。

〔①一般演題（研究報告）・②症例検討〕

- (1) 独創性が認められるか（5段階順序尺度）
- (2) ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法領域への貢献があるか（5段階順序尺度）
- (3) 【演題名】研究・報告内容を適切に反映しているか（適切・否）
- (4) 【目的】研究・報告の必要性や意義が十分に説明されているか（5段階順序尺度）
- (5) 【方法】研究・報告の目的を達成するために妥当な対象および方法が設定されているか（5段階順序尺度）
- (6) 【結果】客観的なデータが正確に提示されているか、または臨床的に重要な知見が示されているか（5段階順序尺度）
- (7) 【結論】論理の飛躍がなく、明確かつ簡潔にまとめられているか（5段階順序尺度）
- (8) 【倫理】倫理委員会の承認、またはインフォームドコンセントが適切に取得されているか（適切・否）

〔②症例検討〕

- (1) 独創性が認められるか (5 段階順序尺度)
- (2) ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法領域への貢献があるか
(5 段階順序尺度)
- (3) 【演題名】 研究・報告内容を適切に反映しているか (適切・否)
- (4) 【症例紹介】 症例の特徴が、報告の目的に関連して明確に示されているか
(5 段階順序尺度)
- (5) 【評価結果と問題点】 評価項目が目的に沿って妥当か、客観的指標・主観的指標が適切に示されているか、問題点の抽出が論理的であるか (5 段階順序尺度)
- (6) 【介入内容と結果】 介入内容が具体的かつ再現可能な形で記述されているか、結果(変化)が客観的・主観的に適切に示されているか (5 段階順序尺度)
- (7) 【考察】 結果に基づいた論理的な考察が行われているか、臨床的意義が明確か、限界や今後の課題が適切に述べられているか (5 段階順序尺度)
- (8) 【倫理】 インフォームドコンセントが適切に取得されているか (適切・否)

〔③実践報告／教育報告〕

査読者は、上記共通項目を基本としつつ、以下の観点を重視して評価を行う。

- (1) 独創性・新規性が認められるか (5 段階順序尺度)
- (2) ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法領域への実践的または教育的貢献があるか (5 段階順序尺度)
- (3) 【演題名】 報告内容を適切に反映しているか (適切・否)
- (4) 【背景・目的】 実践または教育活動の必要性、課題、目的が明確に記述されているか (5 段階順序尺度)
- (5) 【方法・内容】 実施した取り組み（プログラム、教育方法、介入内容等）が具体的かつ再現可能な形で記述されているか (5 段階順序尺度)
- (6) 【結果・成果】 実践または教育の成果や効果が適切に示されているか (定量的・定性的いずれも可) (5 段階順序尺度)
- (7) 【考察】 結果に基づき、実践的または教育的意義、課題、今後の展望が論理的に述べられているか (5 段階順序尺度)
- (8) 【倫理】 対象者（患者、受講者等）への配慮や個人情報保護、必要に応じた同意取得が適切に行われているか (適切・否)

なお、コメントとして全体の印象、改善点、著者への助言等については、自由記載方式で記載することもできる。

3. 採否の決定

演題の採否は、査読結果をもとに学術大会の準備委員会の審査を経て最終的に学術大会長および学会長が決定します。本査読ポリシーにご同意いただかないと、演題登録ができませんので注意してください。